昭和医科大学雑誌　第85巻　第6号〔555-558頁，2025〕

第412回　昭和医科大学学士会例会（保健医療学部会主催）

日　　時　2025年7月12日（土）13：00～16：10
場　　所　昭和医科大学横浜キャンパス104教室

1. 看護チームが陰性感情を抱く患者へのケア
―精神看護専門看護師による支援の在り方についての一考察―

昭和医科大学大学院保健医療学研究科専門看護師（CNS）分野
永井健太郎，浅 沼　 瞳
尾形　佑香，柴田いつか
平井　尚子，田 中　 直
榎田めぐみ

【目的】精神科領域においては，病態特性に伴う言動や行動により看護師が患者へ陰性感情を抱くことがある．看護チームが陰性感情を持った患者を中心に，精神看護専門看護師の視点から実践の振り返りを行い，支援の在り方を見出すことを目的とする．

【方法】実習記録を用いて，①A氏の状態像，②A氏や看護チームが抱える問題と支援の在り方を再検討した．

【結果】A氏の状態像の背景を知るために直接的な関わりを行った結果，自分の感情をコントロールできない，言語化できないA氏の状態と，これらがA氏のストレスを助長させていたことが見出された．看護チームがA氏の陰性感情を抱く背景には，複合的な精神障害を併せ持ち，状態像の理解の難しさゆえの関わりづらさがあった．看護師の関わりづらさという感情体験が積み重なることにより，陰性感情を抱くに至ったことが見出された．

A氏のストレス助長と看護師の陰性感情の軽減するためには，A氏の状態像の理解を看護チームが深めた上で，A氏との関係に枠組みを作り，関わりの統一を図る必要があると判断し，多職種カンファレンス，事例検討会を行った．看護チームの関わりが変わることでA氏の状態に変化がみられた．

【結論】精神看護専門看護師は，精神科領域で複雑な健康問題を抱える人の目に見えにくく，測定困難で理解されにくい病いの体験を言葉にして他者に共有し，看護チームとしてのケア力を高める支援が必要である．

2. 複合的に精神障害を抱え治療上隔離が必要な患者の状態像の解釈
―「不穏」に焦点を当てて―

昭和医科大学大学院保健医療学研究科専門看護師（CNS）分野
伊藤　由輝，尾形　佑香
浅 沼　 瞳，平井　尚子
田 中　 直，榎田めぐみ

【発表内容掲載論文】
投稿中または今後投稿予定

3. 鎖肛をもつ学童期の子どもと家族への看護支援の検討

昭和医科大学大学院保健医療学研究科看護分野
平田　千晶，大屋　晴子

【発表内容掲載論文】
投稿中または今後投稿予定

4. 育児のために短時間勤務制度を利用している一般病棟看護師への支援

昭和医科大学藤が丘病院看護部
多賀名麻由美

【発表内容掲載論文】
投稿中または今後投稿予定

5. 脳損傷者における課題施行時のフロー状態に関連する要因の検討

[1] 昭和医科大学大学院保健医療学研究科リハビリテーション分野
[2] 昭和医科大学藤が丘リハビリテーション病院リハビリテーションセンター
[3] 昭和医科大学保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻
[4] 昭和医科大学藤が丘病院リハビリテーション室
[5] 昭和医科大学江東豊洲病院リハビリテーション室
篠田沙央理[1,2]，渡部　喬之[1,2]
小山　祐矢[1,2]，山口　雄士[1,2]
内堀　謙吾[3,4]，渡邉真理奈[3,5]

【発表内容掲載論文】
投稿中または今後投稿予定

6. 化学療法中の造血器腫瘍患者への作業療法介入
―非構造的インタビュー調査を通じて―

[1] 昭和医科大学大学院保健医療学研究科リハビリテーション分野
[2] 昭和医科大学藤が丘病院リハビリテーション室
渡邉　大貴[1,2]，鈴木　久義[1]

【発表内容掲載論文】
投稿中または今後投稿予定

7. 左右結帯動作における肩甲骨・体幹角度の変化と姿勢制御の検討

[1] 昭和医科大学大学院保健医療学研究科リハビリテーション分野
[2] たちばな台病院リハビリテーション科
[3] 昭和医科大学スポーツ運動科学研究所
[4] 昭和医科大学藤が丘病院整形外科
鈴木加奈子[1,2]，上條　史子[1]
西中　直也[1,3,4]

【発表内容掲載論文】
J Phys Ther Sci. 2024;**36**:564–570.

8. 若年健常者における 20cm の台からの片脚立ち上がりテスト成否による股関節・膝関節筋力の違い

[1] 昭和医科大学大学院保健医療学研究科リハビリテーション分野
[2] 昭和医科大学江東豊洲病院リハビリテーション技術部
[3] 昭和医科大学保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻
[4] 昭和医科大学大学院医学研究科衛生学公衆衛生学分野
大 良　 実[1,2]，加賀谷善教[1]
上條　史子[1]，本島　直之[1]
保 坂　 亮[3]，諸星　北人[4]

【発表内容掲載論文】
J Phys Ther Sci. 2025;**37**:524–529.

9. 半月板縫合術後 12 週でのジョギング開始指標に関する文献考察
～膝前十字靱帯再建術後との比較から～

[1] 昭和医科大学大学院保健医療学研究科リハビリテーション分野
[2] 昭和医科大学江東豊洲病院リハビリテーション技術部
[3] 昭和医科大学大学院医学研究科衛生学公衆衛生学分野
[4] 昭和医科大学江東豊洲病院整形外科
[5] 昭和医科大学藤が丘病院整形外科
山寺　修平[1,2]，加賀谷善教[1]
諸星　北人[3]，古屋　貴之[4]
太田　真隆[5]，大 良　 実[2]

【発表内容掲載論文】
投稿中または今後投稿予定

10. 心不全患者における漸増負荷運動中の下肢筋酸素化動態と下肢筋力の関連

[1] 昭和医科大学大学院保健医療学研究科リハビリテーション分野
[2] 川崎市立多摩病院リハビリテーション科
山崎　太輝[1,2]，根本　慎司[1]

【発表内容掲載論文】
投稿中または今後投稿予定

11. 肺非結核性抗酸菌症外科治療による身体機能および健康関連 QOL への影響：術前から術後 1 年までの検討

昭和医科大学大学院保健医療学研究科リハビリテーション分野
黒山　祐貴

【発表内容掲載論文】
投稿中または今後投稿予定

12. 微小冠循環障害が冠血流予備量比に及ぼす影響

昭和医科大学大学院保健医療学研究科医療技術分野
篠﨑　千早，橘髙　大介
佐藤　久弥

【発表内容掲載論文】
投稿中または今後投稿予定

13. 99mTc ピロリン酸シンチグラフィの加算画像を用いた heart to contralateral ratio 算出における装置の違いによる影響の検討

[1] 昭和医科大学大学院保健医療学研究科医療技術分野
[2] 昭和医科大学藤が丘病院放射線技術部
内 山　匠[1,2]，渡邊　裕之[1]

【発表内容掲載論文】
投稿中または今後投稿予定

14. 異種放射線防護キャップの品質評価について

昭和医科大学大学院保健医療学研究科医療技術分野
荘 司　学，先山　耕史
渡邊　裕之

インターベンショナルラジオロジーにおける術者の頭部被ばく低減を目的として，形状や鉛等量の異なる 3 種類の放射線防護キャップ（キャップ A および B は前面から側面にかけて金属が配置されたタイバック型，キャップ C は全周に金属が配置された全面被覆型）について，放射線遮蔽率および着用時の快適性を総合的に評価した．遮蔽率は人体ファントムを用いて C アームの角度変化に伴う前頭部，左右側頭部，後頭部の線量を TLD 線量計で測定し比較した．快適性は，医療従事者を対象にアンケート調査を実施し，着用のしやすさ，装着適合性，通気性，重さ等 7 項目に基づき評価した．

遮蔽効果は，キャップ C が最も高く，特に散乱線量が高い部位とされる左側頭部の遮蔽率［中央値（四分位範囲）%］は，キャップ A で 78.7（71.9–82.0），キャップ B で 89.3（82.8–91.6），キャップ C で 96.6（94.6–97.3）であった．快適性の評価は，7 項目 35 点満点中の平均値は，キャップ A が 25.2 点，キャップ B が 22.9 点，キャップ C が 16.5 点を示し，キャップ A が最も高く評価された．

以上より，防護キャップの選択においては遮蔽性能と快適性の両立が重要であり，検査特性や照射方向に応じた防護具の活用が求められる．

15. 多焦点眼内レンズにおける術後の自覚と他覚の屈折の差

[1] 昭和医科大学大学院保健医療学研究科リハビリテーション分野
[2] 昭和医科大学大学院医学研究科眼科学分野
[3] 昭和医科大学横浜市北部病院眼科
[4] 昭和医科大学江東豊洲病院眼科
植 松　正[1]，藤澤　邦見[2,3]
岩渕　成祐[2,4]

【発表内容掲載論文】
投稿中または今後投稿予定

16. 鏡視下 Bankart&Bristow 変法における術前関節窩骨形態と烏口突起移行位置が術後リモデリングに及ぼす影響

[1] 昭和医科大学大学院医学研究科整形外科学分野
[2] 麻生総合病院整形外科
[3] 麻生総合病院スポーツ整形外科
[4] 昭和医科大学藤が丘病院整形外科
[5] 永井整形外科
木村　亮介[1,2]，鈴木　一秀[3,4]
神﨑　浩二[1,4]，永 井　 英[5]

【発表内容掲載論文】
投稿中または今後投稿予定